

ペDESTリアンデッキ周辺におけるポケストップの分布とその特徴

綾田 泰之（博士前期課程地球科学専攻）

- 1. 目的:**ポケストップの質的・量的な分布の偏りからPokémon GO プレイヤーの集まる場であるポケストップ密集地の特徴を検討することを目的とする。本研究ではポケストップとしての機能も備えるジムもポケストップとして扱う。
- 2. 対象地域:**対象地域は一の矢学生宿舎から赤塚公園までのペDESTリアンデッキ上およびペDESTリアンデッキに接する施設内である。大学構内、駅周辺、公園など多様な機能をもつとともに駅からの距離に応じた分布の変化を検討することができる地域である。
- 3. 研究手法:**まず、ポケストップを「教育」、「歴史・文化」、「観光・名所」、「芸術」、「商業」、「バス停・案内板」、「不明」、「その他」と分類したうえで位置情報を記録し分布図を作成する。次に総人口の5次メッシュと重ね合わせることでより多くのプレイヤー居住する地域とポケストップの分布の関係を検討する。
- 4. 結果・考察:**ペDESTリアンデッキ周辺のポケストップの分布図から、駅などの中心部からの距離に応じて徐々にその数が減少していくわけではなく、その場所の機能に応じて適当なものが登録された結果、密集する場所とそうでない場所という差が生まれているということが分かった。言い換えると、ポケストップ密集地は人口や都市機能の集中のみならず教育、歴史・文化、芸術的な価値の高さや地域の名所としての価値の高さをもつ場所であると捉えることができる。一方で比較的人口の多い春日4丁目、天久保2丁目付近の調査対象領域内にポケストップは少なく、プレイヤーの居住地の近くであるかどうかというよりも、承認基準を満たす対象物があるかどうかによって分布の偏りがみられる可能性が高いということが言える。



図1 調査対象ルート及び領域と全ポケストップの分布

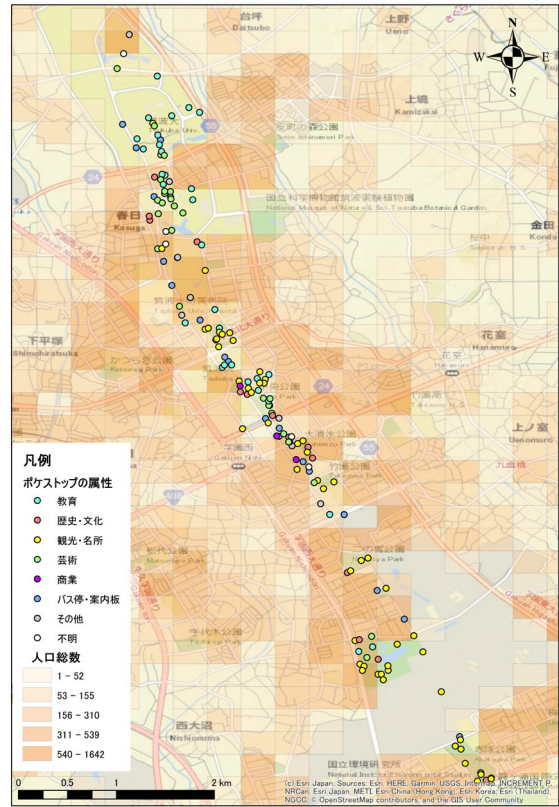


図2 ポケストップの分布と総人口の5次メッシュ